

1956

どこまで本当の話かしらないがクオオボトは本綿の下着を三番とは持っていないかという。世の中が文明化されるということは兎に角欲望の充足がより多く行われるようになることらしい。

徳川時代には田舎では病気をしても仲々医師の世話になるなどということは庶民の望み得べきことではなかった。この状態は明治時代の間に急速に改善され、治療医学が田舎の村々へ普及され人々がその恩恵に浴するようになった。

更に近代医学の特徴の一つとして病気の原因を探究し、いろいろな予防措置を講ずることができるようになり、すなわち予防医学という言葉が出来た。

しかし予防医学とか治療医学という言葉は結局病気を問題にしてゐるのであって、病気にかゝらないようにするとか、病気がかかったらこれを治すとかいうことである。これは勿論非常に大切なことであるけれども、現代人はこれだけで満足しなくなっている。

病気を裏返しにすると健康ということであるが、現代人は健康を希っている。健康というのは「単に病気が衰弱状態がないというだけ

でなく、身体的にも精神的にも社会的にも完全に具合の好い状態」を指すものである。現代人は医学に向つてこれまですべてを要求する近代医学はこのような要求を満たすものでなければならぬ。もし診断治療を本来の医学の課題だとするならば、ここに言うような広い課題は本来の医学だけでは満足されないと言わなければならぬ。

育児に例を取らう。赤ちゃんが生まれた。病気になるまではじめて医師を訪ねて診療を受けるというのが昔のやり方である。公衛ナースすなわち保健婦が訪ねて行って「お宅では赤ちゃんが出来ましたっつね。どれどれ抱っこさせて下さいな」と赤ん坊の様子を見て、正常ならばよし、もし発育が不充分なようなら「ひよっとしたらオッパイが足りないのじゃないかしらよいか」と母親と一緒に考える態度をとって育児指導をして、無経験の若い母親を援助する。なるほどこのがわれわれ現代の庶民に与えられるべきヘルス・ケアである。

急性腎炎の患者が入院したとす。今までの医学はこれに對してどういふことをするか、考えて見ていたように、現代人がこの様な場合、希望するヘルス・ケアすなわちナースングは、入院と同時に病棟主任のナースが指揮して患者の身辺一切の世話を軌道にのせること、そして一応落ちついた患者の心配を聞き出して安心させるように説教を行うことから始まる。尿閉があると、患者は今にも尿毒症に陥りかねない危篤状態に移行するのではないかという心配をして「うん、うん、患者にとっては身

な相談が病院の医療生活相談部へ持ち込まれるのである。相談部では知恵をばらばら出して出来るだけ斡旋調整してわれわれ庶民の困難を取り除いてくれる。

以上の事柄も衛生看護学が実習場の二コマを描写したのであるが、それは医師の仕事場とは大分ちがった風景であることに気がつかれるであろう。

近親親身になって自分の世話を引き受けてくれる人物があり、その指揮によって看護要員が自分の周囲に配置されているという状態は誠に心丈夫なことなのである。大工の娘が専売公社に勤めている。娘は健康保険に加入しているが親父は娘の被扶養者になつていない。ところがある日大工が怪我をした。病院に運び込んで手当をしましたが、何とかして健康保険が使えるものだろうか、というよう

健康をまもる者

福田邦三

学問体系としては従来は医学の体系を一旦はぐりして組み立て直した保健学体系とでもいうようなものが出来るべきであろう。

医学的サービスにおいては医師が報酬をとるが、衛生看護サービスにおいてはナースは報酬をとらない。ナースの活動は健康の社会保障の一面である。ナースの活動が現代文明の一風景であることは次の例からもうかがえると思う。

十才の坊やがウエルホフ紫斑病で長いあいだ学校を休み、入院して脾切除を受け、退院する運びになった。東大分院と衛生看護学科ではこれを看護学生の保健指導実習に利用するに先立ち、方式の型を打ちたてることにした。すなわちウエテランの助手（公衛ナース）が定期的に家庭を訪問して観察と日常生活の調整を行うと同時に、学校の受持教諭等に連絡して欠席中おくれた教科に早くついて行けるよう学科の補習をしてやった。それは十才の坊やの社会復帰（リハビリテーション）に手遅いのないようという心づかいであった。現代のナースングというのはこのようにすることもするのである。ここに到つてナースングという言葉と看護といふ語との間に大

変な開きが出来てしまったのである。産業労働人口に眼をむけてみると、朝七時から夜九時まで十四時間労働を余儀なくされている中小紡績工場の女子工員がある。彼女らの健康は医師だけではまもり得ない。労働基準監督官だけでもまもられない。彼女たちの健康を自分の身近かの問題として考え、直接現場に入り込んで援助するヘルス・ケアのための公衛ナースや産業ナースの活動なしには彼女ら工員は健康はまもれないのである。ナースングは人間を対象とした言葉であるが、ヘルス・ケアは人間ばかりでなく、広く環境条件改善の努力も含んでいる。かくして人々の健康をよりよくまもろうとする努力は医師が行う治療と相まって人々の健康福祉に貢献する。医師だけでも民衆の健康が充分よくまもれると思ふ人もあらうし、医師だけではどうもかゆい所に手が届かない。優秀なナースや保健活動家（ヘルス・ワーカー）が病院や社会に投入されてはじめて、かゆい所に手の届いた保健サービスができるのである。そして現代文明はそれを求めている（衛生看護学科主任教授）

イツ語のPflegeである。人々をはぐくみ、健康の回復、保持、増進について全般の世話を多くのを表象とするのである。看護という言葉が誤解を招くなら、「保健の科学及び技術」を研究し教授する所だといつてもよい。それは医学の一般的理解のほかに、公衆衛生の詳しい知識が必要であり、社会現象、精神現象についての理解など医学教育で軽く扱われている部門で衛生看護学では数等重要視して授けている方面がある。そして